

# 2024 年度 MS 自己点検・評価報告書

構成: 報告書(本資料)・各部署自己点検報告書

## I はじめに

開学 100 周年を迎える 2026 年を目標年として策定された「MS-26 戦略プラン」の推進にかかり、各部署では毎年度事業進捗状況の自己点検・評価を実施している。2021 年度からは、これまでの「MS-26 戦略プラン」の進捗状況を点検・補完するために、より重点を置く目標達成のための具体的内容を、「中期事業計画」として改めて明確化した。本報告書は当該年度事業結果の自己点検・評価を「MS-26 戦略プラン」のドメインごとに取りまとめることで、本学全体の内部質保証体制のチェック機能を担っている。

## II 本報告書 作成から活用までの流れ

【3 月】各部署は自己点検・評価を実施し、その結果を報告書として総合企画部に提出。

【5 月】総合企画部にて自己評価を参考に、「MS-26」ドメインごとに「実績・長所」及び「課題」を取りまとめた。

【6 月-】学長スタッフ会議・大学評価委員会、大学協議会、業務執行理事会で本報告書内容を共有することを通じて、改善活動を推進する。

## III MS ドメインごとの自己評価結果

評価 A. 目標を上回る取り組みをし改善した B. おおむね目標通りの取り組みをし改善した C. 取り組みはしたが改善していない D. 十分に取組みせず改善していない

MSドメイン別事業		評価 A		評価 B		評価 C		評価 D		判定不可		総計
		事業数	% (前年)	事業数	% (前年)	事業数	% (前年)	事業数	% (前年)	事業数	% (前年)	
大学	01-1: 人材の確保と育成／学生	41	33(38)	58	47(45)	18	15(12)	5	4(6)	1	1(0)	123
	01-2: 人材の確保と育成／教職員	46	45(38)	51	50(53)	4	4(4)	1	1(3)	1	1(2)	103
	02-1: 教育の充実／学びの促進	75	32(29)	138	60(64)	17	7(6)	1	0(1)	0	0(0)	231
	02-2: 教育の充実／大学院	27	25(27)	67	61(56)	13	12(15)	2	2(2)	0	0(0)	109
	02-3: 教育の充実／学生支援	21	26(29)	48	60(62)	5	6(4)	2	3(4)	4	5(0)	80
	03-1: 研究の充実／研究推進	9	20(20)	28	64(64)	3	7(9)	4	9(7)	0	0(0)	44
	03-2: 研究の充実／国際的研究拠点	4	31(36)	6	46(29)	2	15(29)	1	8(7)	0	0(0)	13
	04-1: 社会貢献	18	31(36)	35	60(50)	5	9(10)	0	0(2)	0	0(2)	58
	05-1: 組織・経営改革／組織の活性化	10	21(35)	30	64(53)	5	11(4)	0	0(4)	2	4(4)	47
	05-2: 組織・経営改革／ブランド力の向上	9	33(21)	16	59(67)	2	7(8)	0	0(4)	0	0(0)	27
	05-3: 組織・経営改革／基盤整備	18	32(42)	36	63(50)	2	4(7)	1	2(2)	0	0(0)	57
	小計	278	31(32)	513	58(56)	76	9(8)	17	2(3)	8	1(1)	892
高校	01: 人材の確保と育成	1	20(80)	3	60(20)	1	20(0)	0	0(0)	0	0(0)	5
	02: 教育の充実	3	60(83)	2	40(17)	0	0(0)	0	0(0)	0	0(0)	5
	03: 社会貢献	2	100(100)	0	0(0)	0	0(0)	0	0(0)	0	0(0)	2
	04: 組織・体制整備	0	0(75)	4	100(25)	0	0(0)	0	0(0)	0	0(0)	4
	小計	6	38(82)	9	56(18)	1	6(0)	0	0(0)	0	0(0)	16
総計	284	31(33)	522	57(55)	77	8(8)	17	2(3)	8	1(1)	908	

## 【大学】

### 1-1: 人材の確保と育成／学生

#### (1) 実績・長所

- ・入試制度について、推薦・一般方式共に改善を行った結果、延べ出願者数は 50,000 人超え、実志願者数も前年超え。
- ・優秀な人材確保に向けて、各学部で入試形態別の在学生成績分析を実施。
- ・入試情報サイトコンテンツ拡充、SNS を用いた戦略的広報の展開、高校へのアプローチ等、入試広報を強化。
- ・各学部紹介ウェブサイトを充実。
- ・2026年度入試から総合型選抜入試制度の導入学部拡大決定。

#### (2) 課題

- ・学齢人口の減少を踏まえ、志願者の質と量の確保方法。
- ・新たな試験制度の円滑実施(公募制地方入試、C方式検定料割引等)
- ・受験情報 WEB サイト等各種媒体を通じて接触した受験生に対するより質の高い情報提供方法の検討。
- ・東海地区以外からの出願者の増加見込みのある地域での広報強化。
- ・留学生確保に向けた広報及び入試制度等の具体的施策の企画・実行。
- ・大学院定員充足に向けた施策展開。
- ・強化クラブ等における学生マネジメントスタッフの育成。

### 1-2: 人材の確保と育成／教職員

#### (1) 実績・長所

- ・「FD・SD フォーラム」において「学生の成長を支える授業設計」をテーマに実施。
- ・2025 年度から「科目別学修振り返りアンケート」を導入し、授業理解度や成長実感を測定する方法へ変更。
- ・全学の FD・SD 共通テーマとして「学生の学修成果を可視化する取組を踏まえた教育改善」を設定し、各学部における SD 活動を推進した結果、学部等における SD 参加率が向上。
- ・「新任教員 FD・SD 研修」の実施方法を見直し、「実践 FD プログラム」を活用したオンデマンド研修を導入。
- ・研究者に対するコンプライアンス教育等を実施。
- ・大学評価委員会及び各学部を中心とし、評価項目の見直し等、教員業績評価制度の改善を実施。
- ・専門人材を採用し、各部署の機能強化を推進。
- ・初の海外事務職員研修としてユタ工科大へ1名派遣。

#### (2) 課題

- ・各学部・研究科ポリシー実現に向けた「求める教員像」策定と「教員組織編成」の維持充実。
- ・FD 参加率の向上。
- ・大学運営に関する教員向け SD の実施。

### 2-1: 教育の充実／学びの促進

#### (1) 実績・長所

- ・8 学部(都市・情報工以外)に対し、数理・データサイエンス・AI 教育の応用基礎レベルに対応した「データサイエンス・AI 応用基礎」プログラムを開始。
- ・都市及び情報工における教育プログラムが文科省「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」認定取得。

- ・科目等履修生制度を利用し、「データサイエンス・AI 入門」を社会人向けに開放。修了者に対し「オープンバッジ」発行。
- ・アクティブ・ラーニング型授業の導入を促進。2024 年度の授業における実施率向上。
- ・「学びのコミュニティ創出支援事業」の効果検証のため、参加学生アンケートを実施し、事業を通じた成長実感・達成度向上。
- ・「Enjoy Learning プロジェクト」のプログラムを検証し、活性化に向けた取り組みを推進、成果報告会を実施。
- ・アントレプレナーシップ人材育成プログラムを推進。外部資金等を活用し多様なプログラムを開催、参加人数 447 人。
- ・起業活動促進拠点 M-STUDIO 運営充実に向け、専門アドバイザー配置、学生の起業家精神を育む「MEIJO STARTUP CLUB」や「EXPLORER」等のプログラムを実施。
- ・学生主体の起業コミュニティによる各種プログラムの運営に係り、助言・広報活動・学外機関とのマッチングを実施し、活動を支援。
- ・グローバルプラザ利用促進により、学生の英語力向上とグローバルマインド涵養を図り、目標を上回る 34,000 人余が利用。
- ・グローバル人材養成に向けたプログラムを推進、目標を上回る 2,600 人以上が参加
- ・学生個人の学修成果可視化を目的として、全学部生(薬以外)に、修得単位・GPA・DP 達成度を表示した「学修成果フィードバックシート」を配付。
- ・卒業予定者に、4 年間の学修成果の集大成をフィードバックし、就職先にも提出できるよう「名城大学ディプロマサプリメント」を発行。
- ・「学修ポートフォリオ」を活用したキャリア支援の環境整備。
- ・教育改善の活用に向けて、成績及びアンケート等の IR データをダッシュボードとして作成し、大学評価専門委員会を通じて各学部・研究科及び教務担当者に提供。
- ・入学者全員を対象とした「入学前自校教育」を実施。

## (2) 課題

- ・副専攻制度の充実に向けた取り組みの推進。
- ・派遣留学制度の拡充による、学生の海外派遣拡充。
- ・受入留学制度の拡充による、留学生の受入数増加。
- ・学生の授業外学修時間の増加に向けた取り組みの検討。
- ・成績不振学生への学修指導や高等教育修学支援新制度(文部科学省)の活用促進を通じた退学者数減少

## 2-2:教育の充実／大学院

### (1) 実績・長所

- ・修了時アンケートを実施し、成績やアンケート等の IR データをダッシュボードとして作成し、大学評価専門委員会を通じて、研究科にフィードバックし、教育改善のエビデンスとして活用。

### (2) 課題

- ・各研究科において定員充足に向けた志願者確保等の検討。
- ・コースワーク及びリサーチワークの検証。

## 2-3:教育の充実／学生支援

### (1) 実績・長所

- ・就職ガイダンス・個人面談、行事参加などによる就職満足度の維持向上。
- ・チャレンジ支援プログラムにおいて、合宿・セミナーを通じアントレプレナーシップ教育を行い、海外研修はアメリカとネパールで実施。
- ・ボランティア協議会の学生が地域ボランティアに多数参加。
- ・正課外活動支援として、クラブ勧誘ブース設置・紹介動画作成・イベントを学生会と共催。
- ・障がい学生修学支援に向けた講演会開催。
- ・留学生向け就職支援プログラム、障がい学生向け「キャリアガイダンス&仕事理解セミナー」を実施。
- ・特別強化クラブ及び強化クラブ年間活動報告会を実施し、一体感の醸成につながる共通グッズを配布。
- ・名城大学スポーツ運営に関するワークショッププログラムを実施。

## (2) 課題

- ・課外学生生活動への支援の充実。
- ・退学防止に向け、学修指導面談等を通じて、学生個人の状況の正確な把握及び適切な助言や支援の検討。
- ・修士課程学生に加え、博士後期課程学生へのキャリアパス支援。
- ・早期化する就職活動へ対応した施策を実施し、学生の意識・意欲の向上につなげる。
- ・障がい学生支援学生サポーターの確保。

### 3-1: 研究の充実／研究推進

#### (1) 実績・長所

- ・科研費等外部研究資金獲得に向け、申請説明会の開催、ハンドブックの作成、アドバイザーによる申請書作成支援等を実施。
- ・URAを中心に、学外競争的資金の獲得支援、企業とのマッチング、知的財産管理、産官学連携・研究支援サイト(MRCS)での研究成果発信、カーボンニュートラル研究推進機構下での研究支援等、産官学連携活動を促進。
- ・本学の研究力と研究シーズを広く社会に発信し、共同研究など新たな産官学連携のきっかけづくりを目的とするリサーチフェアをバーチャル空間のオンライン展示会にて開催。
- ・本学と包括連携協定を結ぶ東北大学の保有する最先端研究施設「ナノテラス」を活用した研究推進のための研究支援策の企画・調整を実施。
- ・名城大学発スタートアップ起業説明会を開催。
- ・各種研究センターを中心とした独創的・先駆的な学術研究活動を支援。

#### (2) 課題

- ・各種展示会、銀行の技術相談会への出展、リサーチフェアの開催を通して本学研究シーズと外部ニーズのマッチングの促進。
- ・本学の研究シーズの情報発信として、学術研究支援センターWEB サイト(MRCS)のコンテンツの更なる充実。
- ・申請書作成の支援等を通じた科学研究費の申請件数の増加に向けた検討。
- ・起業環境の整備。

### 3-2: 研究の充実／国際的研究拠点

#### (1) 実績・長所

- ・インターナショナル教育・研究センターの各種プログラムを通じた国際的学術交流を実施。
- ・各学部等において海外大学・研究者との研究交流を実施。

## (2) 課題

- ・研究交流のニーズを踏まえた国際的な研究体制の整備検討。

### 4-1: 社会貢献

#### (1) 実績・長所

- ・企業、自治体等と、ゼミ・研究室・学生団体とマッチングした連携事業を実施。
- ・社会連携フォーラムを「ゆるく つながり 創りだす ～ リアルな場に集うことの価値」というテーマで開催し、学外者を中心に 108 人が参加。
- ・社会連携ゾーン「shake」を通じ、パートナーシップ団体や学生の実践の場を創出。
- ・社会のニーズを捉えた公開講座等の企画・運営により、社会人の学びや生涯学習の機会を創出し、外部資金を活用した広報展開により参加者数増。
- ・各クラブが活動地域、居住地域の清掃活動や地域イベントに参加。
- ・専攻科の指定管理法人第 2 期の 3 年目は、タイ・チットラダー工科大学との交流や夏季休暇を活用したグローバルキャンプを実施し、専攻科生の国際感覚を醸成。

#### (2) 課題

- ・社会連携活動の学内における認知度の向上及び正課教育との連携。
- ・地域ニーズへの対応、大学プロモーションや教員研究プロモーションなどにつながる公開講座の実施。
- ・社会人を対象とした社会連携による実践的な学びの場の創設。
- ・専攻科における国際化の更なる発展に向けた検討。

### 5-1: 組織・経営改革／組織の活性化

#### (1) 実績・長所

- ・以下改組等を決定。  
外国語学部国際英語学科に国際キャリア専攻及び国際英語専攻の 2 専攻設置(2026.4-)、理工学部学科間収容定員変更(2025.4-)、農学研究科修士課程収容定員変更(2025.4-)、理工学部化学・物質学科設置(2026.4-)、情報工学研究科情報工学専攻設置(2026.4-)
- ・教務業務における各学部等横断型の業務プロジェクトについて、八事・ドーム前キャンパス職員の参画を得て、全学協力体制の実施形態を構築。
- ・大学評価委員会において、第3期認証評価結果の検証を行い、継続して指摘事項への対応を実施。

#### (2) 課題

- ・大学院(修士)(博士)の活性化・定員充足。
- ・2026 年度事務職員新人事制度導入に向けた取り組みの推進。
- ・次期の認証評価を見据え、教学 IR データを活用した学生の学修成果に基づく内部質保証の実質化の推進。
- ・中期事業計画の進捗状況の点検、また必要に応じた計画見直しの実施。
- ・大学運営に対する学生・教職員からの意見反映方法の確立。

### 5-2: 組織・経営改革／ブランド力の向上

#### (1) 実績・長所

- ・広報戦略に基づく情報発信及びメディアとの関係構築によりブランド力向上を図り、プレスリリース増加。
- ・赤崎教授、天野教授のノーベル賞受賞 10 周年記念「NOBEL BLUE PROJECT」を開催。

- ・第8回スペシャルホームカミングデイを開催、全対象者の招待が完了。
- ・名城社長会組織の充実を図るため、役員構成、会則見直し等を実施。また、名城企業会会員企業の依頼を勧め、第1回代表者会を開催。
- ・開学100周年の浸透・意識醸成にむけ、新大学ロゴマーク、マスコットの制作、学内装飾を実施。

## (2)課題

- ・学内・学外への開学100周年認知拡大。
- ・大学ブランディングに資するコンテンツ及びニュース配信の継続、若年層の閲覧推進策の検討。
- ・名城社長会及び企業会と本学との連携の推進。

## 5-3:組織・経営改革／基盤整備

### (1)実績・長所

- ・私立学校法改正を踏まえた寄附行為改正及び関連諸規定の改正を実施。
- ・競争的補助金事業である私立大学等改革総合支援事業において全4タイプ中2タイプ採択。
- ・物価高騰に対応し、宿泊費支給基準・方法を見直し。
- ・ワークフローシステムの導入及び全学的活用の推進。
- ・前年度実施した防災訓練等を踏まえた改善訓練を実施。
- ・研究倫理、ハラスメント、法令遵守等に係る研修を実施。

### (2)課題

- ・中期事業計画に基づく各種事業の進捗管理の推進。
- ・収支改善に向けた諸活動の推進。
- ・関係部署と協力し補助金増加に向けた取組の推進。
- ・開学100周年イベントの検討・プレイベントの実施
- ・開学100周年記念募金事業の実施・教育振興資金の推進

## 【高校】

### 1:人材の確保と育成

#### (1)実績・長所

- ・志願者数は6,852名(前年比+736名)、入学者数656名となり学則定員を確保。志願者数は23年連続で愛知県1位を達成。
- ・公開見学会・私立学校展等の内容充実。
- ・教職員外部研修への積極的参加。

#### (2)課題

- ・15歳人口減少、普通科改革を踏まえた戦略的入試広報活動の更なる充実。
- ・他校との教員人的交流プログラム構築。

### 2:教育の充実

#### (1)実績・長所

- ・名城大学学部学科説明会を天白キャンパスにて実施。生徒保護者計800人超の参加者があり好評を得た。
- ・共通テスト出願者数が475人と昨年比78人増。

- ・到達度テストを用いて生徒の基礎学力を測定し、その結果に合った学習ができるオンライン学習ツール(スタディサプリ)の活用を促進。
- ・カウンセリング実施日設定の工夫を通じて受入れ可能回数を増加。
- ・いじめ対応を3段階に分け、いじめの解決・問題共有のための書類を整備し、チームとして対応する体制を整備。
- ・2026年4月附属高校普通科改革が愛知県から認可。
- ・「探究 DAY」を2025年2月20、26日に実施。JAXA 理事の岡田氏を招聘し、高大連携講座を実施。
- ・全学年に一人1台のタブレット端末が行き渡り、ICT機器を用いた授業が全学年で実施。
- ・全クラスにおいて正課で探究型学習を実践するとともに課外でのプログラムを開発・実施しており、他校からの見学・参加も受け入れ。
- ・留学生2人、アメリカ、タイ、NZからの交流訪問を受け入れ、オーストラリア研修を実施。
- ・交流のみならず探究的学習に繋がるプログラムを実施。

## (2)課題

- ・普通科改革委員会を中心に教育活動の具体化を進め、高校運営会議を核とした広報活動、生徒募集の具体的行動の決定。
- ・探究型授業の手法・評価法を教員間の共有。
- ・年間を通じた国際交流プログラム実施体制の整備。
- ・退学者数0に向けた取組の継続。

## 3:社会貢献

### (1)実績・長所

- ・地域の保育園、小学校(2校)で16回、延べ317人が交流活動を実施。
- ・地域の町内会のお祭り、子ども食堂、福祉施設、図書館、日本赤十字社献血センター、企業(カフェ、飲食店、キッチンカー等)での活動に述べ1,758人が参画。
- ・日比津学区敬老会のイベントに地域交流系列所属生徒とダンス部が参加。
- ・地域の介護施設で6回、延べ168人の生徒が交流活動を実施。
- ・新富のぞみ保育園の避難所となっており、本年度は2階アリーナへの乳母車を用いた避難訓練を実施。

### (2)課題

- ・避難所マニュアルを常に見直し、地域住民への周知徹底の実施。

## 4:組織・体制整備

### (1)実績・長所

- ・普通科改革WGを実施、ミドルリーダー活性化に向けた活動を推進。
- ・PTAの会議時に教育振興資金、100周年事業に関する寄付についての説明と協力を依頼。
- ・HPにおいて寄付金を呼びかけるバナー等改善を実施。
- ・同窓会役員と学内同窓生で連絡会を実施。全校実施の「探究Day」に助言者として卒業生を招聘。
- ・焼失した第2体育館の解体工事、ユニット型体育館の新築工事に着手。

### (2)課題

- ・学科改編実行にむけ、ミドルリーダー活躍の場として新たに普通科改革委員会を立上げ。

- ・寄付拡充に向け、行事前後等高校生の活躍姿勢をアピールし、支援したいと思える時期に的確に対応できるよう、改善を図る。
- ・100周年に向け同窓生への発信を増やしていく。卒業生で授業、講座の講師を依頼できる方のリスト化。

以上